

— 関西学院大学 —

2月3日 文学部 英語

解答

〔I〕

- A. (1) c (2) d (3) d (4) a (5) a
B. (ア) a (イ) d (ウ) c
C. c, g (順不同)
D. だが、金属の使用は、金属を手に入れるための体系的な過程を見つけるまでは広まらなかった。

〔II〕

- A. (1) b (2) c (3) c (4) a (5) a
B. (1) b (2) d (3) b (4) a
C. (ア) b (イ) d (ウ) a
D. 人間の言語について注目すべき点は、限られた手段から無限の用法を考え出す能力なのだ。

〔III〕

- A. (1) c (2) b (3) d (4) a (5) b
B. (ア) b (イ) a (ウ) d (エ) d (オ) c

〔IV〕

- (1) c (2) b (3) d (4) b (5) b
(6) b (7) a (8) b (9) b (10) a

〔V〕

- A. (1) 4番目 : c 7番目 : b (2) 4番目 : f 7番目 : b
B. This morning (I showed my cousin the book (which) I had borrowed from my aunt).
別解 This morning (I showed the book (which) I had borrowed from my aunt to my cousin).

〔VI〕

- (1) b (2) d (3) d (4) b (5) b
(6) b (7) a (8) d (9) b (10) a

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解 説

[IV]

- (1) 関係代名詞の非制限用法を問うている。本問は、前文全体が先行詞なので **c. which** を使うのが適切である。関係詞を使わずに書いた基盤となる英文は以下の通りである。
It rained every day last week, **and it** (前文の内容) messed up many ~.
→ **which** へ変わる。
- (2) これも関係詞の問題。空所の後の英文は、settle「定住する」(自動詞)があることから完全文と判断できる。よって、空所には関係代名詞 **a. what / c. which / d. who** ではなく、関係副詞 **b. where** が入ることになる。なお、関係副詞 **where** の前には **the place** という先行詞が省略されており、それを補って文意を取ると以下のようなになる。
「アメリカ人の中には、ボストン南部の小さな村 **Plymouth** は新世界で自分たちの祖先が定住した場所なのだと信じている人もいる」
- (3) 2者のそれぞれを指す代名詞 **one** (一方) と **d. the other** (他方) を問うている。
- (4) 空所の前後に **would** と **be** があることから仮定法だと気が付けば、**if** を使わない仮定法の項目で学ぶ **b. otherwise**「さもなければ」だとわかるだろう。なお、**d. without** はオトリの選択肢である。なぜなら、**without** は前置詞なので次に名詞が来なければならないからだ。
- (5) 仮定法過去完了を問うている。後半の **if** 節の時制が **had practiced** であることから、仮定法過去完了だと気が付けば、主節の時制は“助動詞過去形 + **have** + 過去分詞”と導ける。よって、**b. could have** が適切である。
- (6) 語彙の問題。**a** を選ぶと **be composed of** ~「~で構成されている」というイディオムになるが全体の文意が不明。**b** を選ぶと **be committed to** ~「~に深く関わる、~に熱心である」というイディオムになり「この大学は性の平等に熱心である」と文意も通るので適切である。**c** と **d** も文意が通らない。
- (7) 語彙の問題が続く。**due** には様々な意味があるが、最も大切な意味は本問題で扱われている「期日を迎えて」であろう。「この論文は明日が期日なので、君は遅くとも明日にはそれを提出する必要がある」という意味である。
- (8) 「(時間をかけて) だんだんと~するようになる」という表現は、**come to V** 原形、**get to V** 原形、**learn to V** 原形 などがあるが、本問題は **come to V** 原形 を問うており、**b. came to** が適切である。なお、**become to V** 原形という表現はないので英作文で間違っして使わないように注意してほしい。
- (9) 分詞の用法問題。直後に **by such a big audience** があることと、**surround** は「~を取り囲む」という意味の他動詞でありその後ろに目的語がないことを考えれば、過去分詞が入り「子供たちによって取り囲まれて」という意味になるはず。よって **b. surrounded** が適切である。
- (10) 空所の前の前置詞 **on** に注目すれば、空所にはその目的語である名詞が入るはずである。選択肢中で名詞は **a. completion** だけである。

〔V〕

A.

- (1) “無生物主語(～) + remind + 人 + of + 物事(…)” 「～を見れば/聞けば、人は…を思い出す」という典型的な無生物主語構文に沿って並べていけばよい。なお、always の位置は一般動詞の前なので remind の前に置くのがよい。並べ替えた文は以下の通りである。

These (three pictures always remind me of the war).

- (2) 比較級を使った基本的な問題である。比較対象は to church と to theaters なので than の前後にそれらを配置する。また「近頃では」を these days で表せられれば完成となる。並べ替えた文は以下の通りである。

Fewer (people go to church than to theaters these) days.

B.

ポイント1：全体の文構造を以下のように4文型か3文型で構成する。

「(物) を (人) に見せる」→ show 人物 / show 物 to 人

ポイント2：「(おばから借りていた) → 本」を関係代名詞 which/that を使って (あるいは省略してもよい) 形容詞節で表現する。

ポイント3：述語動詞 showed よりもおばから借りていた方が時間的に前のことなので大過去を使って had borrowed とする。

以上の3つのポイントをクリアして本文を表現すれば以下ようになる。

This morning (I showed my cousin the book (which) I had borrowed from my aunt).

(別解) This morning (I showed the book (which) I had borrowed from my aunt to my cousin).

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！